

令和5年度 第5回 牛津高等学校 学校魅力強化委員会（学校運営協議会）議事録

「佐賀県立学校における学校運営協議会の運営に関する要綱」第8条第2項に基づき、次のとおり、第5回学校魅力強化委員会（学校運営協議会）の会議録を公表します。

開催日 令和6年1月31日（水） 於 牛津高等学校テーブルコーディネート室
開催時間 12:00～14:00
出席者数 委員9名 事務局3名
出席者氏名 委員：長戸、高元、野口、横尾、戸村、大坪、ドジソン、滝、江頭
事務局：福島、古川、北村

【会議の内容】

1 課題研究発表会をオンラインで参観

- ① 音楽劇「ねずみの嫁入り」～子どもから大人まで楽しめる劇を目指して～ 生活経営科3年
- ② Grow with clothes ～変化する衣装～ 服飾デザイン科3年
- ③ お米の良さを伝えよう！ ～食育活動を通して～ 食品調理科3年

2 意見交換

- ・子どもたちの成長を見ることができてとても感動した。ぜひ、外部の人にも聞いてもらいたい。
- ・問題設定⇒実験・調査⇒考察 という形でどれもまとめられていてよい発表だった。
- ・商業高校などは商業高校全体で発表会が行われているが、家庭科関係の学校はどうか。
 - ⇒ 課題研究が家庭に関する専門教科なので、家庭に関する専門高校は牛津・鹿島・唐津南・佐賀女子であるが、その中で特に行われているわけではない
 - ⇒ これだけ、良いものができているので、そのような中で、お互いに発表しあう場があればよいと思う
- ・課題研究のテーマはどのようにして決められるのか？
 - ⇒ 科によって違っているが、基本的には自分たちで選ぶが、テーマを提示されたり、引き継いでいくものもある。
 - ⇒ 来年度の課題研究の中で、地域の課題をテーマに取り入れてもらい、関係している地域の人とできる限りつなげていきたい。

3 協議

（1）現状報告（主幹より）

① 令和5年度事業計画と実績報告の資料説明

今年度の目標の一つが地域連携の活動を整理して深化させるということで引き継いでいたので、①プラス U カケル U 活動（生徒の地域での活動）、②外部講師による授業と校外実習、③学校の取組の3つに分類し、まとめてみた。①は生徒たちで参加したものもできるだけ取り上げ、②は外部講師の実習や校外学習の内容を取り上げ、③は SAGA コラボとして取り組んだ活動・地域との

関りの内容・生徒募集関係のことを上げている。①②に関しては、本校の魅力となる部分だと思いが、校内でも知られていないことがあると感じるので、校内外に知ってもらう努力をしていきたい。現時点では県の HP に月ごとに活動報告として、ほぼ全部をアップしてもらっているのですが、これらも利用できたらと考えている。今回の資料にも、月ごとに QR コードを掲載してみたのでぜひ見ていただきたい。

② 前回の魅力強化委員会以降の活動について

【広報活動】 10月に RKB のテレビの取材を受け10分ほどの学校紹介をしてもらった。その際に、取材された方によると材料がありすぎて編集するのに苦労したと聞いていただいた。11月にはインスタグラムを開設した。インスタグラムに自主的にかかわってかれている職員・生徒が中心となって試行錯誤しながらアップしているので、ぜひ、フォローをお願いしたい。

【県外募集】 10月に長崎県佐世保市の3つの中学校に学校訪問し広報活動を行った。体験入学では、4名の県外中学生が参加している。

【行事】 創立60周年行事、文化祭、産業祭と行事もたくさんあり、学校の活動を知ってもらう機会が多くあった。創立60周年記念式典では、地域の方々に舞台のステージ演出をしてもらい、形にはまらない自由で独自の舞台を地域の方と一緒に作り上げた。

【家庭クラブ】 12月に家庭クラブの後援会の中で、コンポスト講座を SAGA コラボの予算を使って実施した。小さな規模ではあるが、現在、家庭クラブを中心に各クラスで調理実習から出る生ごみを堆肥にかえて野菜を育ててみようという取り組みが行われている。家庭科の学校としての取組として宣伝する材料になればと思っている。

③ 今年度新しい地域連携活動

- ・ インターアクト部中心で牛尾山の環境ボランティア
- ・ 西九州大学との連携ボランティア（12月）
- ・ 佐賀県環境整備事業協同組合の社員研修用ドラマ動画制作協力（12～1月）
- ・ 小城の神楽会の巫女さんボランティア（3月）
- ・ 1年生での地域連携講座（2月2回）
- ・ 1年生の生活経営科で認知症講座（3月）
- ・ 小城市市民会議参加（11～3月計4回）
- ・ 牛津 津の里こどもまつり（2月）
- ・ 牛津小学校へミシン補助ボランティア（2月3回）
- ・ 小城市役所のご協力 YouTube で学校紹介動画（来年度6月までに制作予定）

(2) これからの取組について（主幹より）

- ① スクールミッション、グランドデザイン作成
⇒ 目指す学校像を職員で共有するとともに外部にも発信
- ② 発信材料の更新
⇒ 中学生向けの学校説明に家庭科の魅力や地域連携の取組を入れる
- ③ 家庭科の魅力を小中学生に伝える

- ⇒ 近隣の小中学校での家庭科授業の手伝い及び授業実施を計画
- ④ 全国募集に向けての準備
 - ⇒ 生徒受け入れ下宿の確保について小城市と空き家や補助金などの情報を共有し模索
 - ⇒ 県外へアピールできる魅力を模索
- ⑤ 地域連携活動の拡大と深化
 - ⇒ 直接地域の人たちと協働する部分を拡大
 - ・ 課題研究や起業家入門と地域の課題とをつないで継続的な連携を目指す
 - ・ 家庭科単独の牛津高校の特徴である家庭クラブの活動の活性化
 - 「夢つむぎネットワーク」と牛尾山での取組を「三里地区の地域の人たち」とも協働することを目指し、まずは梅まつりで協働
 - ⇒ 西九州大学・小城高校・牛津高校・小城市包括連携での取組模索
 - ⇒ 生徒の作ったものを地域の人に提供する場所を模索
- ⑥ 外部と協力しての情報発信
 - ⇒ 小城市役所のご協力により YouTube 動画出演予定

(3) 意見交換

(会 長) 全国募集というのは佐賀県が推進しているということですが、体制は何もないですね。

(主 幹) はい。県も体制なしで学校や地域に投げているようなところがあります。今、有田工業高校と唐津青翔高校が全国募集を実施していて、実際に生徒も入学しています。もと民宿やシェアハウス等を活用しながらということ聞いています。ただ、お金が必要ということは確かなので、なかなか難しいと思われれます。県外から来るケースは大体部活動が多いかと。

(委員 1) 佐賀工業とか鳥栖工業とかですかね。

(主 幹) 学校の魅力で来るというのはなかなか聞かないが、牛津高校は特徴があるので可能ではと思っている。生徒が祖父母の家に下宿して県外から来るというのは時々あるのでそのようなところを攻めていくのか、いろいろ模索していきたい。人が減っているのは、学校も地域も同じなので、何か一緒に人を呼び込むことに取り組めないかと思っている。

(会 長) なかなか、難しいですね。

(主 幹) 資料の中に北海道三笠高校の資料を入れさせていただいております。明日から、私が視察をすることになっている学校です。三笠高校は廃校が決まった学校を三笠市が市立の学校として復活させた学校だそうです。クラス数は1つ40名定員で調理師コースが20人、製菓コースが20人でどちらも卒業と同時に免許取得可能な教育課程を組んでいる学校です。そして、高校生レストラン、なかなか素晴らしいレストランですが、市が国の補助金を駆使して設立しています。授業ではなく、部活動で高校生がレストラン運営を土・日に行っているそうです。施設はいろいろな使い方をされているようなので、どのような仕組みで運営されているのか見てきたいと思っています。何かしら生徒の作ったものを地域の人たちに提供できたり、地域の中で地域の人たちと集える場所とかを模索してみてもどうかと考えています。

(会 長) 何らかのヒントを得ることができるので、いろいろ見てくることは大事だと思います。自分たちだけで考えていてもどうしても詰まってしまうから。

(主 幹) 牛津に、こんなところにあつたらいいな。とかあの建物は使えるのかな。とかいろいろ妄想し

てみています。空き家もたくさんあるらしいので。

(会 長) 空き家はいっぱいあるでしょうね。

(主 幹) ただ、何をするのもお金が必要となります。この学校は市が創ったという極端な例ですが、団体の方との協力で何かしらできないかと。また、北海道は広いので下宿をすることが一般化しているところも違ってきます。

(委員 1) この記事の中に三重県の相可高校のことが書かれていますけれど、私も以前、牛津に来ていたころ校長先生とこの相可高校の高校生レストランの事例を、その当時 TOKIO のメンバーの松岡昌宏が主演でドラマがあったと思いますけれど、それを参考にしてやりたいですねと話をしていました。なかなか、規制とかがあって難しいというのを当時は言っていました。全国募集とかになると、このようなものが目玉になってくるのかなと思います。

(主 幹) はい。達成できるできないはわかりませんが、まず、それに向けていろいろ取り組んでみることは学校の活性化に向けては悪いことではないのかなとも思っています。ぜひ、資金面など含めて何か方法がありましたら教えていただきたい。

(委員 1) 2003年にちょうど鳳雛塾が地域活性化で総務大臣賞をいただいたことがあったのですが、その時のトップがこの相可高校でした。2003年ぐらいからやっているかと思います。

(会 長) もう20年になるんですね。

(主 幹) 校長先生はそこを訪問されたことがあるそうです。この高校をモデルにして作られたのが今回行く学校となります。相可高校とはまた、違う形のものだと思います。この高校は設立して10年ぐらいです。

(委員 1) 最近、結構このようなものもできやすくなってきたんですね。

(校 長) 相可高校でも、町が、やっぱりすごかったですし、近くにある工業高校の生徒が設計をしてコラボしたりとか、地域全体あげてというか。まごの店という名前です。

(主 幹) 「まごの店」は実は今の2・3年生の英語の教科書に出ています。

(委員 2) 役場の方がいらっしゃる中で言いにくいのですが、街づくり委員会に以前加わっていたのですが、「街づくり」って全然進んでいませんよね。今慌ててやっと牛津駅をきれいにしていますが、なぜ今なのか、そのままだでもよかったのでは思ったりもします。最初の頃は、牛津高校とコラボしてこういうことができるんじゃないかという意見が結構出ていたのですが、全く進まなかった。途中でやめてしまいました。市長さんが公約で牛津を改革するといわれているのであれば、もっとどうにかならないのかと思います。その当時いろいろ案が出ていたんですね。7～8年前ぐらいになるのではないかと思います。

(委員 3) 牛津駅の南口とかですね。

(委員 2) はい、あと赤レンガ館の周りに公園を作って牛津高校となんかできるようにしようというように意見が実際出ていました。「街づくり」で使っている予算などもどうにかならないものではないでしょうか。もっと具体的に支援していただけないものではないでしょうか。市長さんが決めたことではないと思いますが、ぜひ、市長さんにお伝えください。

(委員 3) 確かに、以前そのような構想があったと伺っています。現在、牛津駅の改修とか、その話の中では出ていないかもしれませんが、サッカー場の建設などを行っています。ただ、ソフト面に関してはなかなかできていないのかなと、市の担当としては感じているところです。市長のほうにも伝えたいと思います。

(委員 2) 担当者も変わっているかとは思いますが、状況は変わってないなと感じます。

(主 幹) 現在、下宿についてなど、市にもいろいろ相談に乗ってもらっています。市長さんもなにかできることはとっていただいています。あとは、やりたいと思うことをもっとみんなで広げて、みんなで取り組めるものを提案できるようになる必要があります。今、ひょっこり予算が出てポンと建物が建ったとしても、それらをうまく活用できるかどうかは別問題で、そのようなものを学校がすべて管理できるかとなると、学校にそのような余裕はないと思います。そのような状態では校内の先生方の協力も得ることだって難しいと思います。今あるもので、できることを考えながら、必要なものを県に要求してみるとか、例えば、人が足りないというのであれば、この魅力強化委員会はそのようなことも提案できる組織と聞いているので、試みることはしてもよいのではと思ったりもします。来年以降、何らかの形で県に要求を出すということは大切だと考えているし、とにかくしくみということについて考えたい。ボランティアだけではなかなか継続することは難しいと感じています。何らかの形で継続しながら循環できるような仕組みを地域の人とか行政の人とかと学校が協力しながら編み出すことができれば面白いのではないのでしょうか。今は委員会もあるので、チャンスかと思っています。情報・アイデアなんでもいいのでいただきたい。

(委員1) 街づくりというのは、学校や大学がかかわるとかなり変わってきますよね。私は、今、神崎の街づくりにかかわっているのですが、神崎はほとんど学校とのつながりがなく、商店街の方々が動かれているところです。

(主 幹) 先日、西九州大学・小城高校・牛津高校・小城市包括連携担当者会議に参加してきましたが、大学までである小城市はいろいろな可能性を持っているのではと感じました。材料はたくさんありそうです。

(主 幹) 発信する方法を模索しなければならないのですが、今、小城市役所が小城ツクールと小城めしというところで (YouTube) 牛津高校の紹介をしていただくということでこれから取り組んでいく予定です。来年の中学生への説明するタイミングまでにできればよいと思っています。

(委員3) 小城市が YouTube で小城ツクールという番組を発信しています。来月ぐらいですかね。

(主 幹) いや、まだまだです。6月までには何とか。

(委員3) その番組が始まったいきさつは、情報の伝え方が難しかったり、若者が意見が出せないというところで、YouTube を配信しているところにチャットで意見を言ってもらおうという方法をとっています。小城市の総合戦略課が、水曜日の7時に月2回放映しています。これまでの1年間の積み重ねがありますので、ぜひ、ご覧ください。

(会 長) 学校レストランのような場所を誰が管理していくのかですね。

(主 幹) はい。それを知りたいし、また、教員の数や教育課程なども知りたいと思っています。また、そこを管理するために、何らかの収益があって、それを利用していくことができるのか、例えば、誰かに対して給料を払うことができれば、維持していくことができるのではと思っている。

(会 長) 商売として成り立つのなら商工会にお願いすることもできるかもしれません。

(主 幹) 何らかの収益があってそこを管理する人に給料を出せるシステムが、もし、できれば成立するのか。ただ、学校が儲けるのはだめのようなので、

(会 長) 学校は儲けなくて、あくまで設置した人が儲けるのであって、そこと連携して、そこで生徒さんたちがボランティアか何かで、本当は給料を払ってでもよいとは思いますが、参加してもら

うとか。

(主 幹) はい。アルバイトとしてするのもありかと思うのですが。

(会 長) それぐらいしないと、厳しいのでは。

(主 幹) 無償でなんでもやるのはきびしいと思います。

(会 長) ある程度商売になるのであれば、やれることが出てくる。管理者さえ見つければ。だいたい先がみえましたね。調理場があって、食を提供する場所があって、服飾デザイン科の展示する場所があって、そこで販売できる場所があって、

(主 幹) あとは生活経営科のリラックスできる部屋があって、

(会 長) それこそ 500 円ぐらいでサービスを提供するとかですね。いいと思いますけど。建物ですね。建物を管理するということですね。

(主 幹) 視察する施設は、国の 2 つの補助金を使って建てたと資料には書いてありました。

(会 長) 収益が見込めるのであれば、街づくり会社に頼める可能性もあるかもしれませんね。

(委員 1) 活動実績にある「子ども食堂」は学校が行っているものですか？

(主 幹) それは、就労支援をしているボランティア団体が月 1 回行っているところに手伝いに言っています。

(委員 1) こども食堂のような実績をたくさん積んで、市に提示してみるのもよいのでは。以前、アイルで子ども食堂をやっていたのですが、無料で提供するには大変なので低賃金で、子どもは無料で大人は 300 円もらうなどしていました。

(主 幹) 視察に行く高校はレストランを建てる前に、どこかの空き店舗でうどん等を提供していたと聞いています。それを今の本校ですることについて、尋ねてみたら、授業ですることは無理のようでした。授業でする場合は学校の施設内で行わないといけならしく、免許取得にもかかわってくるということでした。この学校が、部活動でレストランを運営しているというのはそういうことのように。ただ、先生方が毎回土・日曜日につくとなると負担だけが増えてしまい、働き方改革とは完全に逆行してしまいます。例えば、そのようなところで、卒業生の方々に協力していただけないものかとか、卒業生の店に入ってもらうとか、勝手にいろいろ考えてみたりはするのですが、なかなかいいアイデアは浮かびません。

(委員 1) この近くで卒業生がやっている飲食店はないものですか？佐賀市では、廃業する飲食店が多すぎて、後継ぎがないところがたくさんあるようですね。設備のある所に入ってくれる人を探していますが、なかなかみつからないそうです。

(主 幹) そのような困ったところをうまくつなぎ合わせることができるといいですね。

(委員 1) ほんとですね。若い方に経営を本当は任せたいというところもあります。

(主 幹) 経営についても、学校でとなると、また、いっぱいいっぱいのところに新しいことをということになりますし、教えることができる人もまた、必要になります。この辺りも来年度話し合いをしながらカリキュラムについても考えていくことができたらと考えています。レストラン経営は、起業家入門とも合致するものだと思いますし。三重の学校は経営までやっていると書いてありました。

(会 長) 夜しかやらない店を昼間借りてみるとか。昼間だけ食事を提供するというのであれば可能かもしれませんが、夜だけという店も少ないですかね。それができれば設備費がかからなくて済むのかもしれない。

(主 幹) 人員が豊富なわけではないので、回数なども限られてくると思います。

(会 長) やるのであれば、1回だけではなくて、継続していくべきですね。学校から切り離して考えないと無理ですね。アルバイトとかとして考えると、学校の授業でやるというのは無理がありますね。

(主 幹) 学校の外で行ったものは授業としてはカウントできないと伺いました。

(校 長) 調理師要請施設として国から認可が下りているので、時間数が厳格なのです。

(会 長) そうなると専用施設がいるんでしょうね。

(校 長) 本当は校内で作って、校内で提供するのが一番いいということです。例えば、以前「空弁」したときは、企業さんと協働して、そこの名前で出すということをしていました。

(主 幹) 松花堂弁当も持っていくのは無理で、来ていただいて食べていただかなければならないそうです。ですから、来年は、本校で行っている集団給食の実習の時に、地域の方々に来ていただいて食べてもらうということを試してみようかとは思っています。集団給食もいいですよ。

(委員2) 校門のところで売るのもだめですか？

(主 幹) だめだと思います。確認はしますが、です。部活動という形が一番動きやすいということにもなるかと思えます。

(会 長) 部活動だと顧問の先生が付き添わないといけなくなるということですね。

(主 幹) はい。その場合、やはり顧問をたくさんつけるなりして、交代で月一回とかにできればよいのかもしれませんが、内容次第では、誰でもできるというわけにもいかないと思います。訪問する学校は、部活動が調理部と製菓部と地域連携部の3つだけで、学校レストランを運営するのにきっちりまっています。さらに、部活動の数が少なければ、一つの部に入る生徒の数も多くなるので交替が可能になります。部活動ということで、地域移行など話題にはなっていますが、何か利用できないでしょうか。

(会 長) 地域移行については、なかなか、難しそうですね。もともと地域で行っていたものは移行しやすいでしょうけど、学校に部活動があったものに関しては、なかなか移行した話を聞いたことはないですね。学校レストランというのは、いろいろと法律の壁もありそうですね。規制の壁といえますか、色々出てくるんですよね。ですから、その学校がどのようにしてクリアしているのか大変興味がありますね。単に、学生が食事を提供するだけでもいろいろな壁があると思います。調理師の免許を持っていない人が料理を提供はできないでしょうから。

(主 幹) この学校は、辻調理専門学校出身の専任の先生が管理をしているようです。

(委員4) 少し話かわるかもしれませんが、いいでしょうか。今、入試が始まったところですが、服飾デザイン科の人数が全盛期 80 人と比べると今の志願者数が 26 人ということで、以前は服飾・服飾デザイン・和装の3つのコースに分かれて特化したものを学んでいたのですが、今は1~10まで一緒に少人数でやっています。私の職場でも牛津高校の志願者数について話題になったりもします。その中で、どうやったら志願者が増えるのかなと心配してくれる声を聞くのですが、その中で、「服飾デザイン科に行ったらゴールはどこ？」といわれたことがありました。進む先を保護者さんがすごく気にされていて、受検の時に、子どもたちは「洋服好き」「アイドル好き」ということで受検しようとするかもしれないのですが、阻止する人がいるということなんです。つまり親御さんです。商業科とかに行って、数字勉強しておいたほうがいいんじゃないのと言って、最終的には挫折する子もいるとも聞いたこともあります。ですから、服飾デザインの

先には何があるのか。文化服装学院・東京モード学院などに進学する子が微妙にただいだけじゃないですかねという話をしていたところなんです。卒業生でこういう人がいますよ！という風に、進む先が明確に見えたら数字も少し大きくなるのではないかと思います。生活経営科は、今、高齢化が進んで人が不足していますし、保育のほうもストレートに進む先が決まるのではないかと思います。調理師コースも、免許を持つことができるのでそのまま働くことが多いですし、もともと、料理関係の家庭の子供さんが来ている場合も多いと思います。どうしても、服飾デザイン科のゴールが明確に見えなくて、勉強して、一級検定まで取って、勉強して、すごく華やかではあるのですが、親御さんにとってはゴールがぼわっとしているところがあるので、数字につながっていないのじゃないかと思ったりもします。卒業生とかで、華やかな人と呼んできて、こういう進路がありますよ、香蘭短期大学というところがあって、このように専門的なことが学べますよとか、学校のパンフレットには進路先は載っていると思うのですが、親御さんたちがそれを見てわかりにくいのかもしれませんね。このあたりを情報発信してもよいのかな。今、取組されていることもよいと思います。料理を作ったり、地域とコラボしたりということもよいと思いますが、その前に人数を増やしたい。そしてその生徒たちに盛り上げてもらいたい。未来を見据えて、生徒たちを導いていけるような、「生徒指導が榮えてますよ」「就職率や進学率がいいですよ」のような華やかなポイントがあればいいなと思います。デザインで一級検定とっても就職がなかなか見えないので。今、ウェディング業界も低迷していますが、ビトンとかシャネルの高級のものは、大きく伸びていますので、オートクチュールとか輝かしい未来が描ければよいのかなと思ったりしています。県外アピールは良いことだと思っていて、有田工業高校も県外留学生が6名来られているとききます。県外から来た人たちは、焼き物をつくりたいということに特化して来られているので、服飾デザインもデザインや絵をかいたりエプロンを作ったりするのが好きな子たちがいっぱいいると思うので、免許を取ってこんな未来があるんだよと提示できれば親御さんも背中を押してくれるのではないかと思います。14~15歳の子供を県外に出して、佐賀県大丈夫かなというより、佐賀県すごくいいところで、空き家バンクで子どもたちがシェアしながら和気あいあいと生活しているのが見えたらいいなと思っています。来年度ではないと思いますが。

(会 長) 再来年度ですね。早くても。

(主 幹) 市もご協力いただき、住みやすい街とか、楽しく過ごせる環境とか、1つ魅力になれば。服飾についても何か魅力になるものを教えていただければ。

(委員4) 卒業生に輝く人がいればいいのですが。

(委員5) 誰か1人そのような人がいればいいですね。大学でも同じようなことを考えます。

(委員4) そうなんです。少しでもテレビやInstagramで有名な人が一人いれば。

(会 長) 有名なデザイナーさんが実は牛津高校だったとか。というのが理想ですね。

(委員4) そうしたら、生徒もキラキラした目で見ることができるようかもしれません。親御さんも安心して受検してみらんねということになるかもしれません。

(会 長) 具体的な方が伝わりやすいですね。

(委員4) はい。「こんな感じですよ」というより「この人ですよ」という具体的な感じがよいかと。

(委員6) 大学も同じようなところがあります。突出したものを示すとか。

(会 長) 伝えやすいですよ。

(委員4) ほんと輝いた人とか。

(校長) 今日の課題研究の中であったアイドルの衣装を作ってみて成功した!とか。

(会長) この衣装つくりましたとか

(委員4) そうなんですよ。劇団四季とかの裏で働いている方で、こういう風に携わっているんですよ。今チクチク裁縫を頑張っていることが、将来こういうものになるんだということを示すこと。

(校長) どうしてもお父さんお母さんたちから見ると、大丈夫だろうか思ってしまう。

(委員4) 子供を誘導するのは、親のさじ加減になってしまうので、親を巻き込みながらできれば。

(主幹) そうなると、進路の幅をある程度持っているということも大切なかなとも思います。ある程度進学もできますよ、就職もできますよということもたいせつなのかもしれません。誰かいないですか? フランスに行った人いましたよね?

(校長) ベルギーにいたり、フランスにいたり、イギリスに行ったりしています。頑張っていますが、華やかではないですが。服飾の世界は本当に華やかな部分は一握りではありますが先を見てみたい。

(委員4) デザイナーになれる人なんてほとんどいないので。

(委員2) 逆に有名な人の服をデザインしてみたりするのは?

(委員4) 先ほど言われたアイドルとかの服装を作っているのが日本文化服飾学院だったりするので、そういうところとコラボするのはいいかもしれません。最初はローカルなところからでも。

(委員2) 最初は県知事からとか? 県知事のスーツからとか。

(委員4) 今なら、江頭2:50とかも400万人のYouTubeをもっているんで、ジャケットとかどうでしょうか。

(委員2) 彼はジャケット着ますかね。

(委員4) ジャケット着ますよ。彼が、普通にアウトレッドに買い物に行ったというだけで、YouTubeで何十万人、何百万人の人が見てるんですよ。彼は服に興味がないので、送ってやってみてもらう。彼は、SAGAでコラボされているので、バルーンでも佐賀にみんなが来てくれたらということ、自分で実費でバルーンを借りてバルーンをあげたんですよ。佐賀県を誰も誘致してくれないので自分でバルーンを上げたということなので。佐賀にはよく来てくれているようです。そのような著名人とコラボしませんかということもよいかと。勝手に服送って見たとか。一回でも来てくれたら。

(主幹) 課題研究ですね。

(委員4) 知り合いのインスタ等の数を持っている有名人もいると思います。

(委員2) 最初は市長からとか。

(委員4) ちょっと華やかなサテンのスーツとか。

(委員2) 知事なんか喜んでくれそうなのは。

(委員4) 牛津高校大好きということも聞くので。

(委員2) 牛津高校のインスタグラムとてもおしゃれなんです。誰が更新しているのですか。

(主幹) 職員です。生徒も協力してくれています。

(委員2) とにかくおしゃれなので見てあげてください。もう少しで100人なんです。

(会長) 次回、北海道の話も聞けるかと思しますので、

(委員4) 生徒とかも連れていけたらいいですね。

(会 長) 今日は、かなり具体的な話もできましたね。次回についての連絡はありますか。

(主 幹) 次回は3月1日で調整していますが、いかがでしょうか。

(会 長) 今年度の最後となりますが、3月1日でよろしいでしょうかね。本日はお疲れさまでした。